

シンポジウム「佐渡から江戸文化が見える」が開催されました

佐渡金銀山の世界遺産登録に向けて島内の機運を盛り上げるため、6月20日(土)、相川地区の国指定史跡「北沢浮遊選鉱場跡」で、法政大学総長の田中優子氏をお招きし、シンポジウムが行われました。2001年の初訪島から学生を連れて何度も佐渡を訪れているという田中総長から、佐渡の文化の多様性や外国の世界遺産との比較などお話しいただいたほか、島内のまちおこしグループの代表や甲斐市長とのパネルディスカッションも行われました。



佐渡カンゾウまつりが開催されました

6月14日(日)、両津地区願の大野亀で、「佐渡カンゾウまつり」が開催され、島内外から観光客や家族連れなど多くの人が訪れました。

ステージでは、内海府小中学校の児童・生徒によるマーチングや海府太鼓のほか、鬼太鼓、春駒、佐渡民謡などの伝統芸能、フラダンス、ストリートパフォーマンスなどが披露され、観客を楽しませていました。

内海府中学生によるボランティアガイドでは、英語でのガイドにも挑戦し、カンゾウや地域の宝について来場者に説明を行いました。



佐渡 SEA TO SUMMIT 2015 が開催されました

佐渡では初となる環境スポーツイベント「佐渡SEA TO SUMMIT 2015」が、6月27日(土)、28日(日)に開催されました。

1日目の環境シンポジウムでは「佐渡の自然環境を守り、活かすために」と題して基調講演が行われました。2日目のスポーツイベント(カヤック、自転車、登山を個人またはリレーで行う)は荒天のため中止となりましたが、カヤックのほか特産品や豪華景品が当たる抽選会や鼓童による公演などで盛り上がりました。



第2回東アジア農業遺産学会が開催されました

6月23日(火)から25日(木)まで、あいぽーと佐渡をメイン会場に、第2回東アジア農業遺産学会が開催されました。この国際会議は、農業遺産の課題や情報を各国が共有し、その発展に寄与することを目的に、中国、日本、韓国が毎年持ち回りで開催するもので、佐渡は日本における第1回目会場となり、各国の研究者や行政関係者など約120人が参加し、基調講演や研究発表のほか、24日(水)には佐渡の各地を現地視察しました。

